大動脈瘤　episode1

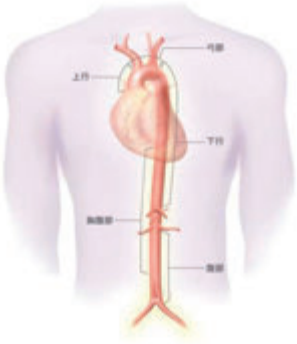
川崎大動脈センター

皆さんは、“大動脈瘤”とういう病気を知っておられますか？
有名人では司馬遼太郎さんやアインシュタインさんなどがこの病気で亡くなっています。
深刻な状態になる前に動脈瘤を早期発見することが重要となります。その大動脈瘤という病気について、ご説明させていただきます。

川崎幸病院 副院長
心臓血管外科部長
川崎大動脈センター長
山本 晋

大動脈瘤とは・・・

腹部にできる腹部大動脈瘤、胸部にできる胸部大動脈瘤、胸部から腹部にまたがってできる胸腹部大動脈瘤などがあります。
動脈瘤は血管の老化現象である動脈硬化が原因となる場合が多いといわれています。つまり、歳をとるとだれでもこの病気になる可能をもっているのです。
特に、動脈硬化を促進する原因：喫煙、高血圧、糖尿病、高コレステロール血症などをもっている方は可能性が高くなります。



大動脈の構造

大動脈瘤

ほとんどの大動脈瘤は無症状です。

他の病気のために検査をしたとき、偶然発見される場合が多く、逆にいうと検査をしなければ発見されることはありません。大動脈瘤は無症状というところに、落とし穴があります。しかも、健康診断などでおこなわれている胸部レントゲン検査では、大動脈瘤があっても発見されない、見逃される場合が多いのです。仮に、病院に行って、“大動脈瘤が心配なので、検査して下さい”などと頼んでも、せいぜい胸部レントゲンをとられて、心配ないと言われることが多いようです。本来であれば、大動脈瘤の診断に欠かせないCT撮影をおこなって、大動脈瘤を発見しなければなりません。

なぜここまでして、症状もなく、何の問題もない大動脈瘤をわざわざ発見しなければならないのでしょうか？

それは、大動脈は通常直径が2～3cmですが、ある一定の大きさ（5～6cmといわれています）を超えると大動脈瘤とよび、この大きさになると血管が破裂する可能性が増大します。動脈が破裂すると体内に大出血をおこし、手術をおこなっても救命することが困難になります。したがって、無症状の動脈瘤を発見し、破裂する前に手術をおこなうことが重要となります。動脈瘤の治療の目的は、まさに、この破裂の予防にほかなりません。

次回は、“もしあなたが大動脈瘤ですと病院で診断されたら”を予定しております。

ご相談・ご質問等は、右記までお気軽にご連絡ください。

社会医療法人財団 石心会
川崎幸病院
川崎市幸区大宮町31番27
TEL 044-544-4611(代表)
※大動脈コーディネーター迄